

高倉通信

〒036-0221
平川市中佐渡南田1-1

高倉新聞販売店
電話 0172-57-3030

第70号

東奥日報
朝日 毎日 経済
読売 日本 新聞
スポー ツ 各種

第31回おのえ花と植木まつり

4月28日から5月6日まで、猿賀公園内で行われた「おのえ花と植木まつり」。まつり開幕とともに咲き始めたさくらも、おだやかな陽気に程なく満開となり、期間中は観光客でにぎわいました。31回目をむかえたこのまつりも、年々多彩なイ



数多くの植木や花が並びました (大伸農園)

ベントが行われ、今年は、買い物額千円ごとに1回抽選できる抽選会も催されました。その中で、初

回から参加している大伸農園(代表 工藤佐久一)は、「最近では、植木に比べて花を買い求めるお客様が増えています。毎年楽しみにして来る方のために出来る限り続けていきたい」とのこと。蒲田にある直売所では「春のリンゴ苗木と植木の大量り出し」も行われており、この日も次々に訪れるお客様に笑顔で対応していました。

ガイドと行く 猿賀まち歩き ミニツアー

まつり期間中、猿賀神社や盛美園などを散策するコースの案内を務めた観光ガイドのみなさん。

まち歩きマップとともに市の魅力をPRする役目を担います。



この日のガイドのみなさんです

まち歩き 弘南鉄道

身近な交通機関で、私達の足としての役割を担っている弘南鉄道が創設に踏み切られたのは、大正13年。地域開発に貢献した弘南鉄道関係者のみなさまには大変なご苦労が



津軽尾上駅

あったようです。

それまで何度も尾上・平賀を鉄道沿線にとという計画が実行されず、弘前への交通が大変不便でした。これは商業や教育のためにも大きな問題であり、文化文明的にも取り残されるとして弘南地方の有志財界人が結束し、私鉄建設へと至ります。ちなみに、弘南鉄道敷設前は、徒歩か馬車が唯一の交通機関で、尾上村にはこれを業とする人がいました。

開業当初の路線は、弘前・津軽尾上間。発起人90人によって会社が創立され、認可・着工から9カ

月後の昭和2年9月7日午後0時5分、汽笛一声尾上駅を出発したとあります。しかし、戦中戦後は物資が不足し、石炭の不足は弘南鉄道に大打撃を与えたことから電化を計画。昭和23年に既設線の電化が成り、25年には黒石までの延長線が完成しました。

—「尾上町誌」より

平川市民 一斉大清掃

「みんなで作ろう住みよい環境」をスローガンに、市内各地で大清掃が行われました。



南田町会で行われたクリーン作戦